



り浸っていました。だから「映画のまち・高崎」として、まちの魅力を発信していくことには特別な思いがあるんです。

浅野 最近では都内の仲間と呼ばれ、撮影に参加することもあります。映画関係者の中でも、高崎の評判は非常に良いです。「高崎で映画を撮りたい」という声もよく耳にします。

市長 高崎のどんなところに魅力があるのでしょうか？

浅野 高崎FCという組織がしっかりといて、撮影がはかどるということもありますし、都内から近いというのも非常に魅力的だと思います。

熊倉 高崎で撮影されている映画やドラマは多いですね。今日歩いてきた中央銀座商店街は、よく撮影に使われていると聞きます。

浅野 古き良き昭和の時代から現代劇まで、いろいろな時代の撮影ができるのも高崎の魅力ですよ。

美しい景色を守るため 残すべきものは残す——富岡市長

市長 最近では、「オールウェイズ三丁目の夕日」など、昭和の風景を絵にした映画が人気ありますね。昭和30年代の街並みっていうのは今一番トレンディーなんだと思う。

浅野 最新作の「三丁目の夕日」でも、高崎電気館が撮影場所になっています。

市長 私はね、今の高崎には潤いと



市民と市長が高崎のさまざまなテーマで語り合う「ほっとタイム」。
今回のお相手は、高崎映画祭ボランティアの熊倉史子さんと高崎フィルムコミッションのボランティア・浅野友司さんです。

撮影場所：ラメーザン（田町）

というのかな、まちに情緒の香りや趣が足りないと思っています。まちなかに緑は少ないし、中高年のカップルがのんびり歩ける通り、散歩道がほとんどない。

浅野 そういう通りができれば、また素敵な映画も撮れますね。

熊倉 私は少しミミハーなんですけど、好きな俳優さんが撮影した場所って行ってみたくありません。

浅野 分かります。あの役者さんと同じ空気が吸えるっていうのは魅力的ですね。

市長 古い街並みや里山の美しさが、今見直されていると思うのですが、こうした景色は一度壊してしまえば、取り戻すことができない。だから、これからは何でも新しいものを作っていくのではなく、残すべきものは残すという取り組みが必要になってくると思うんですよ。

映画祭にはもっと多くの人来てもらいたい——熊倉さん

市長 高崎映画祭は、今年26回目を迎えるということですが、熊倉さんは10年間参加して、内面的に変わったことがありますか？

熊倉 私は映画祭に関わるようになって、さらに映画が好きになりました。大きな映画館で見られないような映画の中にも、素晴らしい作品があるんです。

市長 私は、高崎市民が誇るべきも

高崎は映画関係者の人気撮影スポット——浅野さん

市長 お二人とも映画に関係するボランティアということですが、映画は好きですか？

浅野 私は見るのも好きですが、エキストラとして出演するのも好きです。もともとボランティア活動に興味があって、高崎フィルムコミッション（高崎FC）のエキストラ募集を見たのがきっかけでボランティアを始めました。

熊倉 私の場合、映画はもちろん好きですが、作る方も楽しそうだと思います。高校生のとき映画同好会に入りました。高崎映画祭ボランティアの存在は、父親が教えてくれました。春休みの間に活動できるので、10年間毎年参加しています。

浅野 私は高崎FCに参加して7年くらいです。最初は年に1回ほどでしたが、仲間ができてから、はまってしまっ。今は高崎FCの作品に、年間20本以上は参加しています。

市長 ほんの一瞬でも自分が映っているというのは、うれしいですよ。分かるな、その気持ち。私は中学から高校にかけて、映画少年でしたから。熊倉 富岡市長が映画少年だったなんて少し意外な感じがします。

市長 映画監督になるんだと本気で思っていましたよ。当時はピカデリーやオリオン座、電気館などに入

のの一つに、まちなかにある映画館「シネマテークたかさき」の存在があると思っています。シネマテークが関わって、一生懸命やっている映画祭は本当に貴重な宝ですよ。でも運営は大変なんじゃないですか？

熊倉 そうですね。以前は全国各地で映画祭が開かれていましたが、経営難で中止になっているところも多い。市民ボランティアの力で運営できているのは、全国でも高崎だけじゃないでしょうか。

市長 ボランティアが支えているというのすごいですね。熊倉さんのような若い人は参加していますか？

熊倉 はい。映画祭には大学生も毎年多く参加していて、今年はその世代を中心に準備を進めています。

浅野 高崎映画祭は、市民の方はもちろん、市外の方の評価も高いですよ。

熊倉 ありがとうございます。でももっと多くの人に知ってもらって、会場に足を運んでもらいたいです。そのためには楽しい企画も必要です。

市長 映画はね、子どもたちには夢を与えてくれるし、私の世代になると青春がよみがえるって言う人もいます。「映画」で高崎を元気にするというお二人の活動の輪が、市民の皆さんの間でさらに広がるよう頑張ってください。本日はありがとうございました。

浅野 熊倉 ありがとうございました。



▲高崎電気館前では昭和の思い出話に花が咲く

◀ 趣を感じさせるアーケードの看板

- 高崎映画祭ボランティア…宣伝活動やイベントの企画・運営など映画祭の全ての業務に携わり、映画祭を支える。
- 高崎フィルムコミッション…市内で行う映画・ドラマなどの撮影の相談窓口となり、撮影の支援を行う団体。ボランティア登録するとエキストラとして撮影に参加できる。